

## VIP クラブでただ働きすること——関係ワークと同意の生産

Mears, Ashley (2015) "Working for Free in the VIP: Relational Work and the Production of Consent," *American Sociological Review*, 80(6), pp.1099-1122.

一橋大学大学院 松永伸太郎

近年の日本では、ブラック企業問題に代表されるように、若年層を中心とした労働者が厳しく過酷な労働に巻きこまれていくことが問題化されている。こうした問題はマルクス以来、まずもっては使用者による過酷な労務管理の結果として理解されることが多かった。しかし私たちはそうした労務管理があることを知りつつも、しばしば自ら労働に没入してってしまう。このような事態を理解するために、労働問題に関心のある社会学者は「いかにして労働者は資本主義的生産による搾取に同意しているのだろうか」という問いを立て、フィールドワークに基づく研究を展開してきた。この類の先駆的研究には、Burawoy (1979) による『同意を生産する』という著作がある。

今回取り上げる論文もそうした「同意の生産 (production of consent)」に着目したものである。取り上げられるのは、VIP (very important people) の集まるナイトクラブにおける、10代後半から20代の若年女性の無償労働である。著者であるMearsは、実際にナイトクラブでの無償労働に従事して参与観察を行いつつ、他の参加女性や、彼女たちを「雇う」プロモーターへのインタビュー調査を行っている。

フィールドの情報を述べておこう。ナイトクラブではVIPがどれだけ高価なドリンクなどを注文してお金を落とすかに儲けがかかっている。そのためクラブではVIPを引きつけるために、美しい女性をできるだけ多く配置することに関心が向けられる。そうした女性は若く、痩せており、長身であることが求められる。そうした女性を連れてくる役割を担っているのが、プロモーターである。プロモーターは多くが30～40歳代の男性（一部女性もいる）であり、女性を採用し、動員し、統制する。女性は会場でプロモーターと共にテーブルにつき、ダンスに参加したりして会場の雰囲気盛り上げ、自らを魅力ある女性として演出するが、これらの労働に対して賃金は払われない。彼女たちに与えられるのは高級レストランでの食事の機会や、

VIPがいる目的地への小旅行（渡航費はプロモーターが負担）などである。なお、クラブにはバーテンダーやウエイトレスなど様々な職種の労働者がいるが、賃金が支払われないのはプロモーターが連れてくる女性たちだけである。それではなぜ彼女たちはこうした無償労働に進んで従事している（同意している）のだろうか。Mearsによる分析は、主にこのプロモーターと女性の関係に焦点が置かれ展開される。

Mearsは自身の理論的背景として、論文のサブタイトルにもある労働過程における「同意の生産」、そして経済社会学において議論されてきた「関係ワーク (relational work)」の概念を提示する。ここにおける労働過程とは、労働者が原材料を使用価値に転化させていく過程を指しており、さらに簡潔に言えば製品やサービスを生産していく過程を意味する。まず「同意の生産」については、先述したBurawoyが農業機械メーカーでの参与観察を通して取り組んだ議論である。その要点は、労働者は労働現場において一見管理者の統制を欺くような「ゲーム」（たとえば賃金制度の穴を突いて実際得られるよりも高く賃金を得ることなど）を行うが、そうした「ゲーム」に従事することが、資本主義的生産による搾取に対する同意の機能を持っているということである。Mearsはこの議論を評価しつつ、一方でこうした同意の生産は、仕事における活動を越えた社会的紐帯を通してもなされると指摘する。そこで出てくるのが「関係ワーク」の概念である。この概念は、経済社会学者Zelizer (2012) が（しばしば性愛関係を含む）親密な社会関係と経済的行為の関係について考察を展開するなかで提出したもので、人々が金銭的なやりとりを通して特定の社会関係を維持したり、変容させたりしていく行為のことを指している。この定義にも現れているように、関係ワークにおける「ワーク (work)」とはいわゆる賃労働を指しているのではなく、社会関係の形成・維持・変容にかかわる経済的行為を総体的に捉えたものになって

いる。Mearsはこの議論を参照しつつ、「人々が対人関係を形成し、維持し、折衝し、変容させ、終わらせる際になす創造的努力」と関係ワークを定義する。こうした仕事は、仲介や贈与のような特定の交換に関する言説や構造を含む「関係的パッケージ」をいかにして人々が創出するかを説明するという。このように「同意の生産」「関係ワーク」という概念装置によって、労働現場での活動だけに囚われずに対人関係という観点から同意の生産を論じていくための道具立てが用意される。

分析では、①女性の採用、②パーティーへの女性の動員、③クラブでのパフォーマンス、④女性の身体資本 *bodily capital* の統制という4つの局面における関係ワークを通じた同意の生産が議論され、それに続いて同意の生産が維持されなくなる限界の状況が扱われる。分析の要点を先に述べておこう。プロモーターは女性の労働を娯乐的で、プロモーターとの交友関係（しばしば性的に親密な関係を含む）に基づいたものとして枠づけるように努める。逆にいえば、プロモーターと女性との関係が使用者-労働者関係になっていることを隠蔽する。これがプロモーターの関係ワークであり、これがうまくいく限りにおいて女性たちも同意する。

以下にそれぞれの局面における関係ワーク、同意の生産と、その限界を紹介する。①採用は、フォーマルな面接などが行われるのではなく、「ガールハント」の形をとって、プロモーターが街で見かけた女性を遊びに誘う中で行われる。そこでは女性とプロモーターの間に互いへの興味や楽しい経験に動機づけられた新たな交友関係が開始されるように慎重に枠づけられる。逆に、プロモーターは女性との親密な関係を維持し続けなければ、女性をクラブへと動員できない。②プロモーターは交友関係を持つことになった女性をクラブへと動員するが、その動機づけは賃金ではなく先述のレストランでの食事などの「贈り物」を通してなされる。ここであえて賃金を払わないことがプロモーターと女性との関係を交友関係であるように見せかける機能を持つ。逆に賃金を払ってしまうとプロモーターが女性たちの（美しさなどの）身体資本を利用した一種のセックス・ワークをさせてしまっていることが露呈してしまうため、交友関係は破綻する。③女性はク

ラブにおいてプロモーターと共に客にアルコールを売り、プロモーターの利益を高め、そして共に楽しむというゲームに従事する。これを通して、Burawoyが指摘したのと同様にクラブでの労働過程に巻き込まれる。④プロモーターはクラブが開店している間、女性を常にテーブルにつかせるように統制する。さらには着用する衣装に関しても細かに管理する。しかし、ここでも過剰な管理がなされると交友関係にヒビが入り、関係ワークは失敗する。このようにして、ときには破綻が起こりつつも、若年女性による無償労働が全体として続いていく。

Mearsによる分析は、ジェンダー論やセックス・ワークの議論においても大きな示唆を含むと思われるが、ここではMearsも強調点を置いている同意の生産と関係ワークの意義を述べておくことにしよう。まず今回の論文からわかるのは、Burawoyによるゲームを通じた同意の生産という枠組みが、現代的な労働問題に対しても十分に応用可能であるということだ。労働者がいかなるゲームに関わっており、それを通していかにして同意がなされていくのかは、様々な対象において問われる意義がある。また関係ワークの概念は、もともとは労使関係を前提としていた同意の生産の議論を、職場を離れた人間関係にまで拡張することを可能にする。これは複数の組織を移動しながら働くような労働者の働き過ぎの問題を捉えるにあたって有効な視座であろう。事実、Mearsはあえて職場外の交友関係に着目することによって、若年女性のクラブでの労働への同意を説明した。Mearsの研究は目新しい対象を扱っているが、一方でそこから提出された論点は、労働研究一般にも適用されるべきものであろう。

#### 参考文献

- Burawoy, M. (1979) *Manufacturing Consent: Changes in the Labor Process under Monopoly Capitalism*, Chicago: University of Chicago Press.  
Zelizer, V. (2012) "How I Became a Relational Economic Sociologist and What Does That Mean?," *Politics & Society*, 40(2), pp.145-174.

まつなが・しんたろう 一橋大学大学院社会学研究科博士課程。最近の著作に「アニメーターの過重労働・低賃金と職業規範——『職人』的規範と『クリエイター』的規範がもたらす仕事の論理について」『労働社会学研究』17号（2016年）、pp.1-25。労働社会学専攻。